

「石造りの街ポルトと ヘルシニア期花崗岩」

＜産総研特別顧問 石原 舜三＞



1. サン・フランシスコ教会の側面、ドウロ河に面する、800年前の建造である。この地で得られる両雲母花崗岩を加工利用した。



2. サン・フランシスコ教会の入り口。精巧な彫刻が見事。



3. 手仕上げの花崗岩に青のタイルを組み合わせたビル、リベルダーデ広場にて。



4. 花崗岩造りのカテドラル教会の正面。



5. 街の中央に聳えるカテドラル教会の遠望。



6. ポルトガル特有の青タイルを組み合わせた同教会側内部。



7. 黒ずんだ両雲母花崗岩の露岩(右下)とその風化礫を使った古い民家(左上)に継ぎ足した最近の民家(左上)、左下には100パーセント近代的な家屋が見え、石の街造りにおける新旧の組み合わせが大変面白い。



8. ヘルシニア変形の頂点であるD3期に貫入したイファネス片麻岩状花崗岩複合体の大露頭。



11. ポルトガル北東部の花崗岩の露岩風景。



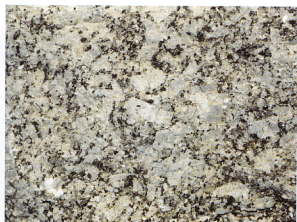
9. イファネス複合体を構成する斑状花崗岩。片理構造 (N120°/80° S) が顕著で苦鉄質アンクラージュが多い点に注目。



12. “クリーン”なD3期花崗岩であるサメイロ花崗岩。



10. イファネス花崗岩と暗色アンクラージュとの間にまたがって産出するカリ長石斑晶。メルト混合の証拠。



13. D3期花崗岩より遅れて貫入した塊状両雲母（厳密には白雲母含有黒雲母）花崗岩であるセロリコ・デ・バスト花崗岩。